

第 12 回南九州地域放射線治療技術合同研究会開催報告書

報告日：2019 年 2 月 7 日

報告者：奥 好史

平成 31 年 2 月 2 日(土) に鹿児島市立病院にて第 12 回南九州地域放射線治療技術合同研究会が開催され、「放射線治療の働き方改革をテーマ」とし、医療職全般に関わる働き方がどうあるべきか、技術的に効率化を進める中で取捨選択をどう考えるべきか等のご講演を頂き、技術・労務管理等と様々な問題点について討論を行った。

午前は、【教育セミナー 1】で「放射線治療における AI 技術の活用に向けて」、「AI-powered healthcare」という内容で、各メーカーより今後導入されていくであろう AI や自動化のシステム等の情報提供を頂き、今後の動向や AI の考え方による精度向上の試みについて報告がなされた。

午後は、【教育セミナー 2】は「Perfraction による患者のモニタリングと自動化への挑戦」というタイトルで、臨床における患者モニタリングの運用方法と計画から解析まで自動化のメリット・デメリット、また最新の研究について報告がなされた。【研究発表】では各県より 2 演題ずつの計 6 演題の発表がなされ、QA ツールを用いての簡略化の試みや最新の技術を用いて検討した報告があった。【特別講演 1】では、今村総合病院の土器屋先生より「放射線治療部門の働き方改革-総論-」のテーマで、医師の長い残業時間に付随して他職種の医療従事者の時間外労働も増加している傾向にある。放射線治療は広汎なハード面の技術集積とその高精度な QA/QC の維持、全過程に於ける安全確保のための多職種人材育成が必須であり、全患者層に対して最適な高精度な治療を提供しなければならない。そのための働き方改革は単に残業時間の時間因子のみならず、良好な職場環境への最適で効率の良い財的・人材投資の在り方を含めて検討する必要があると論じておられた。

【特別講演 2】は、大阪大学大学院医学系研究科 放射線治療学講座の隅田先生より「放射線治療の働き方改革～何を省き、何が必要か～」の講演をいただいた。Golden beam data (GBD) や Representative beam data (RBD) を用いた放射線治療機を立ち上げた経験を基に、省略化の面とその恩恵について分かり易くかつ懇切丁寧にご教示いただいた。ただ、必要とされる点について放射線治療に対する照射プロトコルや線量評価内容の一貫性を施設として担保することが大事であると強く仰られていた。

【テーマ討論】は「放射線治療の働き方改革 仕事の集約」というテーマの元、EPID を用いて品質管理の効率化を実施し、標準化が図られるようになり、ひいては医療安全の担保にも取り組んでいる。また放射線治療部門における時間外業務の現状の問題点と課題を踏まえた労務管理の視点からの仕事の集約化、放射線治療における取捨選択することにより、働き方改革を多角的な視点で考慮し、現状打開の可能性を探っていた。最後に会場を含めた討論を交え、さまざまな意見があり有意義なテーマ討論がなされた。

研究会に 118 名、情報交換会に 57 名ご参加頂き、盛況な会にして頂いたことを感謝致します。

最後になりましたが、講師派遣補助金助成制度を利用させていただき、日本医学物理士会の関係者の方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

研究会の様子

